

やまなみ

2014
夏
vol.11



写真提供：アルプス観光協会
河童橋と穂高連峰



長野県では、7月の第4日曜日を「信州山の日」と制定し、7月15日～8月14日までを「信州山の月間」としました！

信州山の日制定！

その一環として、6月に開催した「第3回駒ヶ根高原ふくしセミナー」では、ベニシア・

「信州山の日」としまし
期構想『信州の自然を愛し、
ゆったりとした暮らし』ともに
紡ぎます』において「信州自
然的暮らしの創造」をスローガ
ンとして掲げ、取り組んでいる
ところです。

さて、長野県は7月の第4日
曜日を「信州山の日」としまし
たが、当事業団でも「第2次長
期構想『信州の自然を愛し、
ゆったりとした暮らし』ともに
紡ぎます』において「信州自
然的暮らしの創造」をスローガ
ンとして掲げ、取り組んでいる
ところです。



いあいさつ

長野県社会福祉事業団 常務理事 伊藤 敏

スタンリー・スミスさんによる

「自然と調和したシンブルな暮
らしのすすめ」の講演、特別企
画として「信州のオール・ブ
リュット展」を開催し、大勢の
方にご来場いただきました。ご
協力、ご参加いただきました皆
様にお礼申し上げます。

引き続き、地域に開かれた事
業団として、多くの情報を発信
していきますので、皆様のご支
援ご協力をお願いいたします。

【特集記事】 第3回駒ヶ根高原ふくしセミナー開催 !!

【連載記事】 事業所リレートーク
チャレンジアクション
『西駒郷「和出楽（わでらく）」の取り組み』
つれづれ福祉
『信州のオール・ブリュット展』

平成 26 年度組織概要 / 平成 26 年度事業計画・収支予算書
平成 25 年度事業報告・収支決算書 / 人事異動 / プレゼント ほか

第3回 駒ヶ根高原ふくしセミナー開催!!

テーマ：「暮らしの工夫から育つ豊かな生活の提案」

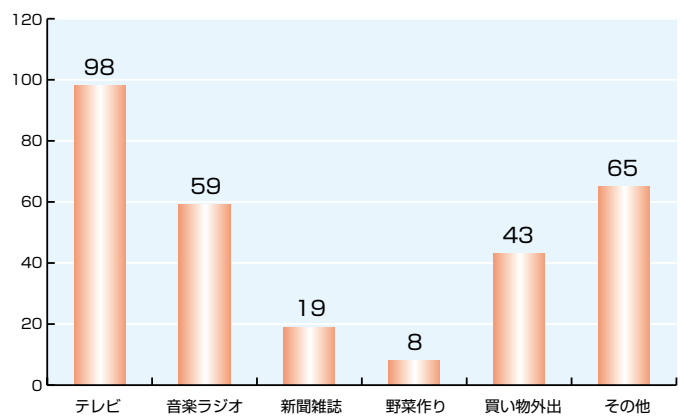


長野県社会福祉事業団は、日本財団の助成を受け、平成23～24年度の2年間にわたり「知的障害者の地域生活移行に関する地域生活実態調査・検証事業」(※)を実施し、グループホーム等で生活する利用者(以下「ホーム利用者」と表記)の「暮らし」について調査を行いました。

その調査で、ホーム利用者に「休日GHで過ごすとき、楽しいこと」について聴き取りをしたところ、圧倒的に「テレビ」「ラジオ」で過ごす方が多いという結果が得られたほか(図参照)、サービス管理責任者からも「夕食や入浴、洗濯等が終われば、ほとんどの利用者がやる事もなく、すぐ寝てしまう」という回答が大半を占めるなど、ホーム利用者の暮らしの中身が乏しい傾向にあることが明らかとなりました。

こういった状況を鑑み、事業団ではホーム利用者の積極的な「暮らし」創りを応援するため、ホーム利用者と支援者が「暮らし」のイメージを共有し、新たな趣味や生きがい作りができるきっかけの場として、地域生活移行発祥の地「西駒郷」のある駒ヶ根市・宮田村で当事者参加型のセミナーを開催し、発信していくこととしました。

※「知的障害者の地域生活移行に関する地域生活実態調査・検証事業」については当事業団HPから報告書をご覧ください。



【図】休日GHで過ごすとき、楽しいこと N=195 重複回答あり

このセミナーの特徴は、障がいのある「当事者参加型セミナー」として、「学ぶ」「交わる」「楽しむ」をコンセプトに様々なイベントを開催していることです。

なお、第3回目となる今回から、当事者向けイベントを1日目、支援者向けイベントを2日目に設定し、また開催日も金曜日・土曜日と平日を含めたことで「より参加しやすくなった」とのご意見を頂戴しました。

セミナーには2日間で延べ800人にご参加いただくことができました。

【その他(65)の主な回答例】掃除(9)、寝ている(6)、運動(5)、カラオケ(4)、洗濯(4)…等



【実行委員会構成団体】
 長野県社会福祉事業団
 長野県知的障がい福祉協会
 長野県手をつなぐ育成会
 長野県社会福祉協議会
 駒ヶ根市社会福祉協議会
 宮田村社会福祉協議会

写真出典：駒ヶ根市観光協会ライブラリー

	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00
宮田村民会館	①開会式	②アートフェスティバル	③カラオケのど自慢大会					
		④スイーツコンテスト						
		⑤ドラム教室	⑤ドラム教室					
		⑥生け花教室	⑥生け花教室					
			⑦アート教室					
黒川水産(駒ヶ根高原)				⑧釣りコンテスト				
宮田観光ホテル							⑨夕食交流会	

①開会式

主催者あいさつ、来賓の祝辞のほか、各種イベントの概要を紹介しました。



②アートフェスティバル

多くの仲間と舞台芸能を鑑賞しました。



③カラオケのど自慢大会

宮田村民会館の大ホールで熱唱！ゲスト歌手のステージも大いに盛り上がりました。

ゲスト 小沢亜貴子氏(演歌歌手・飯田市出身)



④スイーツコンテスト

西駒郷信州まめ匠で焼いたスポンジケーキを「大切なあの人に贈るケーキ」をテーマにデコレーションしました。

審査員長 小池晃氏(創作菓子みにぶらん(宮田村)パティシエ)



⑤ドラム教室

アフリカのリズムや音遊びを楽しみました。会場は熱気ムンムン。終了後は皆さんスッキリした様子でした。

講師 竹内利彦氏(アフリカン太鼓演奏団体サブニューマ代表)ほか



⑥生け花教室

テーマは「雨やどり」。大きな葉っぱを傘に見立てて「生け花」を楽しみました。

講師 千葉清美氏(上伊那地区にて定期教室主催)



⑦アート教室

信濃美術館の「おもしろ美術講座」として開催。紙粘土等の身近な材料でパフェの「食べ物アート」を制作しました。

講師 高田紫帆氏(長野県信濃美術館学芸員)



⑧駒ヶ根高原釣りコンテスト

宮田村の釣り堀、黒川水産で行う釣りコンテスト。釣り上げた魚は夕食交流会のテーブルに並びました。



⑨夕食交流会

参加者全員で親睦を深めました。

駒ヶ根市・宮田村の観光協会・商工会にご協力いただき、くじ引き大会にも駒ヶ根市・宮田村の特産品を準備。各種コンテストの表彰式の後はカラオケもやっちゃいました！



	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00
宮田村民会館	⑩オープニング	⑪基調講演	⑫シンポジウム	⑬閉会式	
西駒郷		⑬信州駒天駅伝大会			



⑩オープニング

地元 宮田村の音楽集団「響(ひびき)の会」によるオープニング。話題の「アナ雪」を含めたステージに会場が一体となりました。



⑪基調講演

「自然と調和したシンプルな暮らしのすすめ」
講師 ペニシア・スタンリー・スミス氏

NHK Eテレでもお馴染みのペニシアさんが宮田村にやってきました。ペニシアさんが提唱するシンプルな暮らしとは…超満員の聴講者からは、講演終了後もペニシアさんへの質問が続きました。シンプルな暮らしを実践するペニシアさんのライフスタイルは、きっと日々の暮らしのヒントになったことでしょう。



⑫シンポジウム 「発達障がいのある人への理解と支援」

司会/福岡寿氏(高水福祉会(飯山市)常務理事)
シンポジスト/新保文彦氏(保護者、長野県自閉症協会代表)
北原恵美氏(長野県箕輪進修高等学校 特別支援教育コーディネーター)
小出千広(上伊那圏域障害者総合支援センターきらりあ心理・支援員)



⑬第4回 信州駒天駅伝大会

西駒郷周辺の周回コース(1.5km)を使用し、6kmを4人から8人でタスキを繋ぎました。沿道には多くの応援団も駆け付け、チーム内外の選手・スタッフ・応援団が交流を深めました。



● アール・ブリュット作品展示
高原セミナーの特別企画として開催した「信州のアール・ブリュット展」の作品の一部を宮田村民会館で展示しました。(企画展の詳細はP7「つれづれ福祉」参照)

● セルブ販売コーナー
長野県セルブセンター協議会にご協力いただき、上伊那圏域の福祉事業所がそれぞれの製品を展示・販売しました。

2日間共通イベント等

⑭閉会式
主催者からの閉会の言葉とあわせ、2日間のイベントをスライドショーで振り返りました。

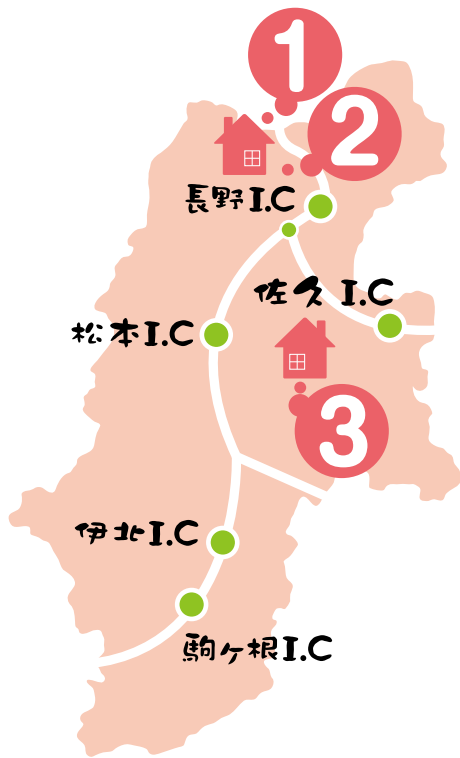


次回高原セミナー予定

- 開催日：平成27年6月26日(金)～27日(土) (予定)
テーマ：「社会資源とネットワークの発信(共生)」
- ・地域ケア体制から見た暮らしの在り方(共生社会実現)
 - ・障がい児から障がい者、高齢化と年代別支援のはざ間の課題と実践報告
 - ・当事者向けイベント(カラオケ、駅伝ほか)
 - ・夕食交流会



◆次回セミナーの開催に向けて◆
長野県社会福祉事業団は第2次長期構想で、この「駒ヶ根高原ふくしセミナー」を5年間、毎年開催することとしています。
今回、様々な反省点を踏まえつつ、折返し地点となる第3回目のセミナーを開催しましたが、開催目的を見失うことなく、引き続きホーム利用者の積極的な「暮らし」創りを応援していきたいと考えています。
セミナーにはどなたでもご参加いただけます。
セミナーを通じて、きっと新たな気付きが見つかると思いますので、次回セミナーにも多くの皆様のご参加をお待ちしています。



① 小春日和(こはるびより)

～弁当の販売で地域とのつながりを～



小春日和は、26年度新たに『就労継続支援B型(定員10人)』を加え、『就労移行支援(定員12人)』との多機能型事業所として再スタートしました。

今年度は、一人ひとりの個性や能力に合わせて自立した生活を送るための就労の場として安定した工賃支給が行えるよう弁当の販売をスタート。

毎日約60～70個の弁当を作っています。

小春日和の弁当は、できるだけ地元の食材を使用し、手作りで旬の美味しいものを提供できるように努めています。

開設当初は予約販売のみでしたが、最近は近隣にある美容室へ毎日お弁当を届けるなど、少しずつですが地域の中にある施設として受け入れられつつあるように感じます。



今後は販路を広げ、一般家庭(主に高齢者向け等)への配達などを展開していけるよう地域に根付いた施設を目指して、皆が一丸となって取り組んでいきたいと思います。(仲田)



② 障がい者スポーツ支援センター長野「サンスポルトながの」

～より身近なサンアップルを目指して！
念願の「サンスポルトながの」開設！～



平成10年、長野県障がい者福祉センター「サンアップル」の開所からはじまり、15年に「サンスポルト駒ヶ根」、18年に「サンスポルトまつもと」、21年に「サンスポルト佐久」とサテライトを開設し、県内において障がいのある方のスポーツ・運動の振興と環境作りに取り組んできました。

そして、平成26年6月！サンアップル内に、北信地域のスポーツ推進拠点として「サンスポルトながの」を開設しました。

これまで、サンアップルとして実施してきた北信地域における出張スポーツ教室等をさらに強化していきます。

県下4地域にそれぞれの拠点となる、サンスポルトが揃いました。

県内の障がいのある方のスポーツ環境を広げていくため、サンスポルト一丸となって活動をしていきます。皆様のご協力をお願い致します。(太田)



③ 松本あさひ学園

～「あさひクラブ」で充実した毎日～

当学園では、心理・生活支援・医療・教育それぞれのスタッフが連携して治療に当たる総合環境療法を展開していることから、職員室は常に児童の話でいっぱい。治療的観点から生活のルールなど見直すと同時に新たな支援プログラムを模索中です。



その一つが今年で3年目となる「あさひクラブ」です。今年、人形劇や合唱、サイクリング、アウトドア等、7つのクラブが活動中です。

なかでも「あさひ太鼓」は地域の方にも好評で、夏祭りなどのイベントへの出演要請が年々増加しています。児童も「ハレの舞台」での発表にやりがいを感じ、日々の練習に励んでいます。

先日(6/21)も同じ松本市内の松本ひよこの「ひよこ祭り」のオープニングに招待され、太鼓演奏を披露し、来場者から盛大な拍手と歓声をいただきました。今後も数多くの要請に応えていきたいと思いますので遠慮なく声をかけてください。(漆戸)



ある1日の

「和出楽」の活動

10:00 集合（始まりの会）

出席者はまずは自分の写真を貼り、おやつとコーヒーをいただきながら活動内容の確認をします。



10:15 活動開始

この日は雨降りでしたので、『体育館清掃』を行いました。



11:00 終わりの会

和出楽

通常の活動に馴染めない利用者を対象とした少人数グループによる活動

9:00
10:00
11:00
12:00
13:00
14:00
15:00

通常の活動時間

昼食

通常の活動時間

昭和43年に定員500人のコロニーとして建設された西駒郷は、入所利用者の地域生活移行が進んでおり、平成26年4月現在、入所者は119人となりました。

一方、グループホーム等から通所する利用者が増え、210人が生活介護

西駒郷の抱える課題から

西駒郷『和出楽（わでらく）』の取り組み

や自立訓練、就労継続支援等の日中サービスを利用しています。

西駒郷では環境にも配慮し、利用者一人ひとりの適性に合わせたグループを編成して日中活動を提供しています。どうしても最大公約的な内容となってしまうため、集団の中に居られなかったり、椅子に座ることが我慢できなかつたりと、既存の活動環境に馴染めない利用者がいます。

「和して」「楽しく」「出番のある」活動

活動を通して（状況と展望）

こういった状況を打開するべく、利用者が一時でも楽しく思える活動に参加したり、他人との関わりの中で行動を取ることに楽しさを経験し、「一日一日を有意義に過ごせるようにしたい」という思いから、平成26年4月に少人数グループによる「和出楽」の活動時間が創られました。

メンバーの4人は、この活動時間帯は通常の活動から離れ、構内や地域のゴミ拾い、体育館の掃除、空き缶つぶし等の作業を行っています。

「和出楽」という名前の由来は、「和」して『楽』しく『出』番のある「活動」という意味が込められています。「通常の活動環境」に適應できなかった利用者も、少人数グループによる「和出楽」の活動を始めてからは、それぞれが役割（出）番を持って活動しています。

この活動を続けていく中で、自分にとって居心地の良い居場所がつかられ、帰属意識（和）の意識）が持てるようになることや、一人ひとりが得意分野で「楽」しく過ごせるよう、活動の幅を広げていきたいと思っています。（森）



西駒郷駒ヶ根日中支援課 支援員 友野由香利

「和出楽」に取り組んでみて

当初、この「和出楽」の活動は難しいのではないかと考えていましたが、実際に活動を始めるとスムーズに取り組むことができました。今まで、対象となる利用者さんたちは支援員となかなか関わりを持ってないように思われていましたが、取り組んでいく中で本当は人と関わることが好きなことが分かりました。そして、「和出楽」の活動を始めたことよって、集団の中で過ごせる時間が少しずつ増えてくるなどの成果が現れています。

反面、活動内容については「作業を中心とした現行の活動のままではいいのか」という疑問も残りますので、今後は活動が単調にならないよう、できそうな活動があれば余暇的な内容も積極的に取り入れて、人との関わりをより一層感じられるよう「和出楽」を魅力ある活動にしていきたいと思っています。



「信州のオール・ブリュット展」

「こだわりの文化を生きた表現者たち」

「オール・ブリュット」は一般的に「生(き、なま)の芸術」と言われています。

この概念は障がい者の表現に限定するものではありませんが、日本では社会福祉施設での制作が盛んで、(社福) 滋賀県社会福祉事業団(2014年4月より(社福)グロー)が、いち早く「オール・ブリュット」という言葉を使用して、スイスのローザンヌやフランスのバリで「オール・ブリュット・ジャポネ展」を開催し好評を博しました。そして、この信州にも多くのオール・ブリュット作品(作家)が存在します。



高原セミナー実行委員会では、このオール・ブリュットが「豊かな暮らしづくり」に寄与すると考え、第3回駒ヶ根高原ふくしセミナーの特別企画として長野県障がい者福祉センター「サンアップル」(長野市)主催「出前アートワークショップ」の講師を長年務めた関孝之氏が、県内の社会福祉施設等を訪問する中で出会った目を見張るような作品を中心に、6月27日(金)から8月5日(火)までの約1ヶ月間、約60点を駒ヶ根高原美術館にて展示しました。

また、7月19日(土)にはオール・ブリュットに造詣の深いシンポジストを招き、オール・ブリュットの可能性や普段の暮らしへの取り入れ方等について、会場の展示室に集まった約50人を前に1時間半にわたって意見交換をしました。(中村)



主催者 あいさつ

高原セミナー実行委員会
委員長 辰野 恒雄
(長野県社会福祉事業団理事長)

私がこのような作品に出会ったのは50年以上前になります。

私は大学時代を京都で過ごし、すぐ隣の滋賀県、近江学園の糸賀先生のところで夏休みを過ごしたりしたのですが、その近江学園や就職した児童施設で何かを書くことに「こだわ」(繰り返す)といった方達に出会いました。

私達がどんなに働きかけても、毎日毎日、寸分変わらず、何十でも何百でも書き続けられた作品…、当時は「落書き」と言われていたのですが、今では「オール・ブリュット」と呼ばれています。

誰かが教えたり、指導したりした作品ではなく、本当に生の、その人自身が持ち合わせているエネルギーで創り上げた作品です。

今日はそんな生々しい世界のお話を聞かせていただき、楽しい時間になれば良いと思います。

—ギャラリートークの流れ—

- 1) 司会・シンポジスト自己紹介
- 2) 企画展のねらい説明(関氏)
- 3) 企画展の感想(各氏)
- 4) 「オール・ブリュット」の定義と魅力(伊藤氏)
- 5) ギャラリーでの作品展示・販売等について(大谷氏)
- 6) 福祉現場に「表現活動」を取り入れる意味(宮下氏)
- 7) 「アートの力」とは?(各氏)
- 8) これから期待すること(各氏)



シンポジスト

宮下智氏

(長野県知的障がい福祉協会会長)

飯田市にある明星学園、第二明星学園の総園長をしています。

自閉症スペクトラム障がいの反復性・強迫性というのは、二次障害の場合もあります。苦しさの中から作品が生まれていると感じているので見ていて苦しくなります。

専門家としたり「反復的・強迫的に描かなくても良い暮らしを提供すること」ができれば、それは適切な支援だと思いますが、幸せになってコミュニケーションがとれるようになると、今まで描いていた面白い作品を描かなくなってしまうというのは「やや残念だ」という葛藤もあります。

彼らの絵や行為が何かのメッセージだったりすることがあるんですね。

まあ、やっちゃ困ることもあるけれど、許せることは許しながら「暮らし」を構築していくことで、彼らの暮らしが表現活動になっていくと思う、僕らとも繋がることのできるのだと思います。



シンポジスト

大谷典子氏

(元麻布ギャラリー佐久平キュレーター)

私の勤めている画廊は、作品展示や販売もしていますが、「地域貢献」という視点で、積極的にオール・ブリュット作品、障がい者の作品展示等にも関わらせていただいています。

佐久地域にある3ヶ所の知的障がいの福祉施設に月2回訪問して、絵画等の制作のお手伝いをしていますが、私のギャラリーで作品を展示したり、デザイナーさんをお願いしてTシャツや手ぬぐい等を作って販売したりしながら、作品の面白さを感じています。

自分はオール・ブリュットに関わるなかで、どんどん楽しくなってきたのですが、不謹慎な意味じゃなくて、皆さんも面白がってくれれば良いなと思います。



シンポジスト

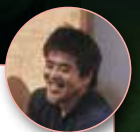
伊藤羊子氏

(長野県信濃美術館学芸係長)

「オール・ブリュット」に関わりを持ったきっかけは、アートパラリンピック(1998)やアートSO(スペシャルオリンピック)展(2005)で、信濃美術館が作品展示やワークショップをお手伝いしたからです。今回の企画展も圧倒され楽しませていただきました。

「現代アート」って難しいんですが、「オール・ブリュット」は本当に根源的で、分かりやすく、美術の偏見を解き放つ作品、ジャンルかなと思います。よく「芸術的価値」について問われますが、大切なことは「人の心が動く」ということだと思います。心が変わらないと暮らしも豊かになりません。

今日、「アートの力」って話があったのですが、社会が変わるような力になっていけばいいなと思っています。



司会

関孝之氏

(ながのアートミーティング代表)

僕らの仲間には障がいのある人たちが中心にアート活動のお手伝いをしようということで「出前アートワークショップ」で福祉施設や教育現場で楽しい時間を提供したり、今回のような企画を手伝ったりしています。

「自閉症文化」という言葉があります。よく福祉現場では彼らの生きづらさを問題として焦点を当てがちだけど、今回の企画展で彼らの鋭い感覚や独特の捉え方を知ってもらいたいと思います。表現自体が彼らの生き様なのだと思っています。

表現活動を通じて、ネットワークを構築していけば、何かとてつもないことができると思うので、一人ひとりががんばるんじゃなくて、今回のように繋がりを持ちながら、素敵な長野県になればいいなと思います。

つれづれ福祉

徒然なるままに：他の法人等とのネットワークの中から見える「福祉」を、そこはかとなく書き綴ります。

【長野ブロック】

- ① みのちそう 水内荘**
 ・施設入所支援事業（定員40人）、生活介護事業（定員68人）
 ・短期入所事業（併設型6人）、相談支援事業（一般・特定）
- ② みのちグループホームセンター**
 ・共同生活援助事業（13ホーム 定員71人）
- ③ 長野圏域障害者総合支援センター歩楽里**
 ・地域生活支援事業、相談支援事業（受託・一般・特定・障害児）
 ・居宅介護事業（身体介護・家事援助） ほか
- ④ やぐもびより 八雲日和**
 ・生活介護事業（定員14人）、就労継続支援B型事業（定員25人）
- ⑤ こはるびより 小春日和**
 ・就労移行支援事業（定員12人）、就労継続支援B型事業（定員10人）
- ⑥ 長野市地域活動支援センターこぶし**
 ・地域活動支援センター事業（定員15人）

ブロック長 小宮山 紀道（水内荘所長）

【障がい者福祉センターブロック】

- ⑩ 長野県障がい者福祉センター「サンアップル」**
 ・障がい者のスポーツ・文化活動支援事業
- ⑫ 障がい者スポーツ支援センター長野「サンスポートながの」**
 ・サンアップルの北信サテライト事業所
- ⑬ 障がい者スポーツ支援センター駒ヶ根「サンスポート駒ヶ根」**
 ・サンアップルの南信サテライト事業所
- ⑭ 障がい者スポーツ支援センター松本「サンスポートまつもと」**
 ・サンアップルの中信サテライト事業所
- ⑮ 障がい者スポーツ支援センター佐久「サンスポート佐久」**
 ・サンアップルの東信サテライト事業所

ブロック長 関口 一道（障がい者福祉センター所長）

【松本ブロック】

- ⑦ 信濃学園**
 ・福祉型障害児施設入所事業（定員30人）
 ・短期入所事業（空床型）、日中一時支援事業
 ・施設入所支援事業・生活介護事業
 ※18歳以上対象
- ⑧ 松本あさひ学園**
 ・情緒障害児短期治療施設（入所30人、通所5人）
- ⑨ 松本ひよこ**
 ・生活介護事業（定員21人）
 ・就労継続支援B型事業（定員18人）、相談支援事業（一般・特定・障害児）
 ・共同生活援助事業（4ホーム 定員23人）
 ・重度障害者等包括支援事業（定員5人※上記再掲）

ブロック長 佐藤 靖（信濃学園所長）
 副ブロック長 小島 健一（松本あさひ学園治療支援課長）

⑭ 法人本部(事務局)

- ・事業団が経営する各事業所の管理運営における調整
 ・介護福祉士等修学資金貸付事業 ほか

【上伊那北部ブロック】

- ⑩ ほっとグループホーム伊北**
 ・共同生活援助事業（16ホーム 定員81人）、相談支援事業（特定）
- ⑪ ほっとグループホーム伊南**
 ・共同生活援助事業（8ホーム 定員41人）
- ⑫ ほっと居宅**
 ・居宅介護事業（身体介護・家事援助・通院介助）、行動支援、地域生活支援事業
- ⑬ 伊那ゆいま〜る**
 ・生活介護事業（定員15人）、就労継続支援B型事業（定員20人）、相談支援事業（特定）
- ⑭ ほっとワークス・みのわ**
 ・就労支援B型事業（定員20人）、相談支援事業（特定）
- ⑮ 辰野町障がい者就労支援センター「工房ぬくもり」**
 ・就労継続支援B型事業（定員20人）、相談支援事業（特定）
- ⑯ 辰野町地域活動支援センター**
 ・地域活動支援センター事業（定員20人）

ブロック長 埋橋 行雄（辰野町障がい者就労支援センター所長）

【上伊那南部ブロック】

- ⑰ にしこまごう 西駒郷**（駒ヶ根支援事業部、宮田支援事業部 計）
 ・施設入所支援事業（定員160人）、短期入所事業（空床型）
 ・生活介護事業（定員165人）、自立訓練（生活訓練）事業（定員10人）
 ・就労継続支援A型事業（定員20人）
 ・就労継続支援B型事業（定員60人）、相談支援事業（一般・特定）
 ・自活訓練事業

ブロック長 原 雅章（西駒郷所長） 副ブロック長 滝 茂樹（西駒郷管理部長）

⑰ 上伊那圏域障害者総合支援センター「きらりあ」

- ・相談支援事業（受託・一般・特定・障害児）、障害児等療育支援事業
 ・発達障がいサポートマネージャー整備事業、障害者就業・生活支援センター事業 ほか

平成26年度 事業計画・収支予算書

【管理部門】

1 長野県西駒郷及び長野県障がい者福祉センターの5年間の指定管理者指定

平成26年度以降5年間の指定管理者として長野県西駒郷、長野県障がい者福祉センター（長野県障がい者スポーツ協会と共同申請）とも再指定されました。これまで構築してきた様々なノウハウを基盤に、提案した事業計画に基づき、質の高いサービス提供に努めます。

2 勤務評価制度における評価表を2区分から3区分へ改正

新たにリーダーとしての役割を持つ「主任・専門員・係長」クラスの勤務評価を導入し、従来の2区分の評価表（管理職、管理職以外）から3区分（管理職、主任・専門員・係長クラス、主事・支援員クラス）とします。

3 各ブロックにおける新たな事業の拡大及び施設整備

県内各ブロックの事業所において、利用者の年齢や障がいの状況に応じて支援できるよう、高齢者向けの分場設置や重度・自閉症対応型グループホーム2棟の開設、居室の個室化等を実施するとともに、長期構想に基づく新たな事業所の設置についても検討を進めます。

【支援部門】

1 相談支援体制の充実と発達障がい児者等への支援技術のスキルアップ

発達障がい児者特別研修、心理・支援員職員研修、相談支援専門員研修等を実施し、それぞれの分野において各ブロックまたは各事業所のリーダー的役割を担っていく人材の育成を目指します。

2 新規採用職員27人の各事業所配属・定着

松本ブロックに11人、上伊那北部ブロックに2人、上伊那南部ブロックに14人を新たに配属し、それぞれが各事業所・ブロックに慣れ、定着できるよう努めます。

3 「第3回 駒ヶ根高原ふくしセミナー」の開催

「暮らしの工夫から育つ豊かな生活の提案」をテーマに当事者向けの様々なイベントを開催するほか、ベニシア・スタンリー・スミス氏の基調講演、発達障がいのシンポジウム等を開催します。また特別企画として「アール・ブリュット」を発信するための作品展も開催します。

4 「信州自然的暮らし」の創造計画推進

利用者の暮らしを、単なる保護的・受身的暮らしに置くのではなく、地域住民等と関係を結び、その地域風土の中で自己実現できる積極的な暮らし創りを考えるため、各事業所において「信州自然的暮らし」のイメージを取り入れたプログラムを計画し取り組みます。

平成26年度 長野県社会福祉事業団収支予算書

(単位：千円)

科目		本年度予算額	前年度予算額	増減	科目		本年度予算額	前年度予算額	増減	
事業活動による収支	収入	児童福祉事業収入	195,552	203,840	△ 8,288	施設整備等による収支	収入	38,000	6,870	31,130
		就労支援事業収入	94,826	92,862	1,964		設備資金借入金収入	71,287	7,220	64,067
		障害福祉サービス等事業収入	2,352,706	2,447,633	△ 94,927		施設整備等収入計(4)	109,287	14,090	95,197
		その他の事業収入	322,015	305,640	16,375		設備資金借入金元金償還支出	20,030	15,542	4,488
		経常経費寄附金収入	100	50	50		固定資産取得支出	275,644	42,700	232,944
		受取利息配当金収入	1,532	2,430	△ 898		その他の施設整備等による支出	0	3,239	△ 3,239
	支出	その他の収入	24,263	30,066	△ 5,803	施設整備等支出計(5)	295,674	61,481	234,193	
		事業活動収入計(1)	2,990,994	3,082,521	△ 91,527	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 186,387	△ 47,391	△ 138,996	
		人件費支出	1,988,529	2,045,319	△ 56,790	その他の活動による収支	収入	180,512	134,297	46,215
		事業費支出	526,980	514,000	12,980		積立資産取崩収入	180,512	134,297	46,215
		事務費支出	329,667	377,790	△ 48,123		その他の活動収入計(7)	180,512	134,297	46,215
		就労支援事業支出	94,826	92,285	2,541		支出	36,379	33,055	3,324
支払利息支出	2,634	2,113	521	積立資産支出	36,379		33,055	3,324		
その他の支出	1,119	620	499	その他の活動支出計(8)	36,379		33,055	3,324		
事業活動支出計(2)	2,943,755	3,032,127	△ 88,372	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	144,133	101,242	42,891			
事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	47,239	50,394	△ 3,155	予備費支出(10)	0	0	0			
					当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)					
					前期末支払資金残高(12)					
					当期末支払資金残高(11)+(12)					

1 ほっとワークスグループホーム・ケアホームセンターの事業所分轄

細やかで質の高い支援や責任の明確化、機動力などの更なる強化・充実を図るため、「ほっとワークスグループホーム・ケアホームセンター」を3事業所に分轄し、ホーム利用者等の支援にあたりました。

変更前	変更後
・ほっとワークスグループホーム・ケアホームセンター(24ホーム運営、居宅介護等)	・ほっとグループホーム伊北(16ホーム運営) ・ほっとグループホーム伊南(8ホーム運営) ・ほっと居宅(居宅介護等)



第1回 相談支援専門員研修 (25人参加)

2 相談支援事業の充実と人材育成

平成26年度末までにサービス等利用計画の策定を進めるため、新たに5事業所で特定相談支援事業を立ち上げ、合計10事業所で相談支援事業を行うとともに、事業団独自の相談支援専門員研修を開催するなど、人材育成に努めました。



干し柿作り (みのちグループホームセンター)

3 「信州自然的暮らし」の取り組み

「長野県社会福祉事業団第2次長期構想」で掲げる「信州自然的暮らし」を各事業所で実践しました。

項目	具体的プログラム
自然を活かした暮らし	自然散策、山菜採り、動物飼育
農業的暮らし	花壇づくり、家庭菜園での野菜作り
生活習慣・伝統を取り入れた暮らし	地域行事参加、郷土食の摂取
エコな暮らし	自然エネルギーの活用



野菜作り (松本ひよこ)

4 情報発信事業の充実

事業団の情報発信事業として「広報指針策定の検討」「事業団だよりの発行」「第2回駒ヶ根高原ふくしセミナーの開催」「事業団広報ビデオの活用」「ホームページの充実」の5事業を行いました。なお新たに5事業所でホームページを立ち上げたことで、事業団全事業所でホームページを開設することができました。



秋の創作活動 (辰野町地域活動支援センター)

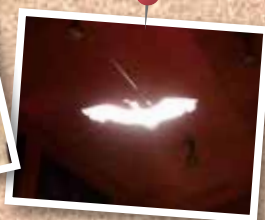
5 提供するサービスの質の向上

利用者本位のサービスを提供するため、各事業所でイベントや旅行を企画したほか、太鼓や演劇等のサークルを立ち上げ、生きがいや楽しみを持って生活できるよう余暇活動の充実に努めました。

水内荘が中心となり活動している長野ブロックでは、演劇サークル「空」を立ち上げ、11月に公演を行いました。



演劇「朱鷺」公演の様子



人事異動

新規採用

(平成26年4月1日付)

信濃学園 栄養士兼主事/山口晶子(総務課、支援員/市村明美(支援員、折井幸雄(同)、看護師/有山礼子(同)、支援員/岡村美咲(同))
松本あさひ学園 主事兼支援員/金井美奈(総務課、支援員/宮坂聡史(治療支援員、中島優香(同)、宮坂佳央梨(同)、宮崎里美(同))、
松本ひよこ 支援員/百瀬隆裕
ほっとワークス・みのわ 支援員/柘植健司
辰野町障害者就労支援センター 支援員/奈須楓
西駒郷 看護師/森本綾子(総務課、支援員/松尾穂(地域移行推進課) 伊澤久介(あすなろ支援課、竹倉文恵(同)、飯森悠太(ひまわり支援課、江田翠(同)、伊藤翔(同)、原千春(さくら支援課、有賀和久(同)、加藤未有(駒ヶ根日中支援課、若川亜久里(同)、櫻井志帆(同)、薬袋剛章(わく宮田)、野浦斉(同))

事業所間異動等

(平成26年4月1日付)

事務局 事務局長/塩沢総夫(西駒郷駒ヶ根支援事業部長)
水内荘 所長/小宮山紀道(水内荘支援課長、支援課長兼栄養士/板倉吉子(水内荘専門幹兼栄養士)、主任支援員/富田久未子(八雲日和主任支援員)、西郷泰久(みのちグループホームセンター支援員)、支援員/佐藤聖子(西駒郷支援員、繰澤知映(西駒郷支援員)、清水猛夫(八雲日和支援員))
みのちグループホームセンター 所長/小宮山紀道(兼、支援員/棚田英孝(水内荘支援員))
長野圏域障害者総合支援センター歩楽里 所長/小宮山紀道(兼、支援員/河原崎ひかる(兼、今井志帆(水内荘支援員)、東晋平(兼))
八雲日和 所長/伊藤敏(兼)、主任支援員/伊東慎一(水内荘主任支援員)、支援員/河原崎ひかる(上伊那圏域障害者総合支援センター支援員)
長野市地域活動支援センターこがし 所長/小宮山紀道(兼、支援員/東晋平(兼))
信濃学園 専門幹兼支援第二係長/小野沢真(支援第二係長、支援員/北澤直人(サンアップル主事、井浦麻梨(水内荘支援員))
松本あさひ学園 心理治療員/上杉晴樹(西駒郷支援員)
松本ひよこ 支援員/鈴木若菜(信濃学園支援員)、森美彩(ほっとグループホーム伊北支援員)

ほっとグループホーム伊北 主任支援員/小松聖司(ほっとグループホーム伊南支援員)、主事/茂木誠(西駒郷支援員)、支援員/宮澤澄恵(西駒郷支援員)
ほっとグループホーム伊南 支援員/宮崎大樹(西駒郷支援員)
伊那ゆいま〜る 支援員/矢島慶一(西駒郷支援員)
辰野町障がい者就労支援センター 所長/埋橋行雄(再)
辰野町地域活動支援センター 所長/埋橋行雄(再)

西駒郷 駒ヶ根支援事業部長/矢花尚利(再)、ひまわり支援課長/市瀬元彦(事務局企画課長)、支援員/小河千折(松本ひよこ支援員)、駒ヶ根日中支援課係長/藤原健(西駒郷庶務係長、わく宮田支援員/藤原健(兼、宮田支援事業部長/森岡恵子(西駒郷まっぴ支援課長、まっぴ支援係長/濱田琢也(西駒郷自活訓練係長、わく宮田課長/森岡恵子(兼))
サンアップル 主任/新井孝尚(水内荘支援員)、指導員/三浦雄高(サンスポート佐久指導員)
サンスポート佐久 指導員/矢崎明斗(サンアップル指導員)

派遣期間終了

(平成26年3月31日付)

信濃学園 所長/合木康典(県公衆衛生専門学校へ)、支援第一係長/長田基佳(大町保健福祉事務所へ)、主任支援員/湯澤ゆかり(伊那保健福祉事務所へ)、支援員/岡村敏之(波田学院へ)
松本あさひ学園 専門幹兼心理治療係長/小口浩司(松本児童相談所へ)、心理治療員/足田泰規(諏訪児童相談所へ)、男子ユニット係長/増沢広志(波田学院へ)、ホームユニット係長/山口博幸(県精神保健福祉センターへ)、支援員/清野恵美子(県総合リハビリテーションセンターへ)

退職

(平成26年3月31日付)

水内荘 専門員/柳沢敬博
信濃学園 栄養士兼主事/二木晴久
辰野町障がい者就労支援センター 所長/埋橋行雄
辰野町地域活動支援センター 所長/埋橋行雄
西駒郷 ひまわり支援課長/今村信康、宮田支援事業部長/矢花尚利、看護師/一志寿美江(兼)他職との業務職員等
(再) 退職後、再雇用職員等

職員採用のお知らせ

長野県社会福祉事業団 平成26年度職員採用試験

- 総合職採用試験 一次試験日/平成26年9月21日(日)
- 一般職(看護師)採用試験 一次試験日/平成26年9月28日(日)

※詳細は当事業団ホームページからご確認ください。

職員提案制度にて表彰

事業団では職員の積極的な考察、創意工夫を奨励するため提案制度を設けていますが、この度、中村勤二主任(事務局)が「オール・ブリュットミュージアム信州の設置・運営」について提案し、6月に理事長表彰を受けました。

この提案は、昨今の国や県の動向も踏まえ、事業団で美術館を設置・運営するといった内容で、審査会は、「美術館の設置・運営は時期尚早である」と判断しましたが、今後、事業団として芸術活動支援を推進していく契機となりました。



トピックス

プレゼント



「八雲日和(やぐもびより)」

支援員

玉井 靖人からのメッセージ



八雲日和の「お八季」は、「八雲うどん」と並んで多くの皆様から大変ご好評をいただいている主力商品です。地元で収穫した旬の野菜を味噌やしょう油で味付けし、信州の地粉「更科のめぐみ」で作った皮で包み、蒸

した昔ながらの家庭のおやきです。

珍しいところでは、「トマト・玉ねぎ・紫イモ」等を生地や具材に使用した季節限定商品もあります。

お陰様で、お八季の売り上げは順調に伸びており、日々製造や販売に携わっている利用者さんの励みとなっています。八雲日和のお八季を、ぜひ一度ご賞味ください。

事業団だより「やまなみ」の感想や今後掲載してほしい内容等について、①郵便番号、②住所、③氏名、④電話番号を記載のうえメールまたは郵便はがきにて法人本部(事務局)までお寄せ下さい。

10月末までにお寄せいただいた方の中から抽選で、「八雲日和」の「お八季」を5名の方にプレゼントいたします。

なお、当選発表は賞品の発送をもってかえさせていただきます。(プレゼントの発送は11月頃を予定しています)

平成26年6月に厚生労働省の検討会が社会福祉法人に対し「公益活動の推進」や「法人運営の透明性」を求める改革案をまとめました。

こういった中、長野県社会福祉事業団は一社会福祉法人としての役割を果たしていくことはもちろん、県の外郭団体として誕生した経過も踏まえ、新たな役割についても追求していく必要があると考えます。

今回、本紙7Pの「つれづれ福祉」に掲載した「信州のオール・ブリュット展」の取り組みは、複数法人間等による連携や地域貢献、そして生活介護事業等における重度障がい者支援の新たなヒントがある気がしてなりません。(中村)

掲載記事の内容等についてのお問い合わせ及びプレゼントの応募はこちらまでお願いします。



社会福祉法人
長野県社会福祉事業団

〒380-0928 長野市若里七丁目1番7号 長野県社会福祉総合センター5F
 tel : 026-228-0337 fax : 026-228-0310
 URL : http://park19.wakwak.com/~nagano-shafuku-j/

編集後記